

# 年頭所感



全医協連

会長 小林 照尚

(こばやし てるひさ)

新年明けましておめでとうございます。

全国医師協同組合連合会の皆さまにはご健勝にて新年を迎えられたことと心よりお慶びを申し上げます。平素より当会事業に深いご理解とご支援をいただき厚く御礼を申し上げます。

昨年一年を振り返ってみますと、総会でも述べましたように、日本や日本国民を取り巻く環境が急激に変化しており、ますますその厳しさを増していることに驚かされます。

政治面では、歴史的「政権交代」は起こりましたが、5月鳩山首相は、米軍普天間飛行場移設を巡る迷走などの責任を取り退陣、菅直人氏が首相に就任しました。しかし、「尖閣諸島問題」など日本政府の対応が世界から疑問視され、明確な信念ある基本方針が求められています。

経済面では、先進国の不況は深刻になり、

先進国が競って自国通貨の安値誘導による経済の立て直しを目指す、という異常な状況を呈しており、その中で日本政府は動かず、急激な円高を招き、輸出産業を中心にさらなる景気後退という状況になっています。

また、医療・医業界に与える影響も大きく、過去数年にわたって続いた医療費削減により、医師は勿論のこと、国民の生活そのものの疲弊を余儀なくされています。

こうした厳しい環境変化は、全医協連および各医協にも多大な影響を与えています。

全医協連としては、各事業分野において、様々な取り組みにチャレンジしております。

購買部では、丸善と提携した書籍斡旋事業を柱として、今後第2、第3の同様事業の開発を進めるとともに、多くの魅力ある商品を提供すべく研究をしております。

福祉事業では、保険手数料収入の減少に歯

止めをかけるとともに、各医協の収入増加を目指し研究を行っております。昨年より「小額短期保険会社」の事業化が可能であるかどうか検討を続けてきましたが、昨年11月12日「保険業法改正法案」が参議院本会議で可決成立したことにより、従来の「休診共済会」の行っていた共済事業を多少の変更は必要とするものの、再開するめどが出てきました。

今後関連情報の収集に努め、全医協連および各医協にとって価値ある共済事業になるよう、小額短期保険との検討比較を加えながら、早期の事業立ち上げを目指しております。

皆様のさらなるご支援とご理解をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって明るい良い年になりますことを祈念し、新年の挨拶いたします。